

## 平成25年5月教育委員会会議の要旨

### 1 日 時

平成25年5月23日（木）

開会 14時 閉会 15時45分

### 2 場 所

教育庁教育委員会室

### 3 出席委員

委員長	村上 智真
委員長職務代理者	稲野 靖枝
委員長職務代理者	山縣 俊郎
委員	岡野 芳子
委員	中田 範夫
委員（教育長）	田邊 恒美

### 4 出席者

教育次長	上野 清
教育次長	竹本 芳朗
審議監	小西 哲也
審議監	河村 行則
教育政策課長	河村 邦彦
教職員課長	廣川 晋
義務教育課長	清時 崇文
高校教育課長	岩本 龍治
特別支援教育推進室次長	石本 正之
社会教育・文化財課長	藤村 恭久
世界スカウトジャンボリー開催支援室次長	河村 祐一
人権教育課長	尾崎 敬子
学校安全・体育課長	栗林 正和
教育政策課企画監	濱井 昭巳
やまぐち総合教育支援センター次長	十河 悟

## 議案

### 議案第1号『山口県教育委員会表彰規則による表彰について（報告承認）』

#### 【概要】

下関市立江浦小学校教諭 藤井 健一郎<sup>ふじい けんいちろう</sup>に対して、教育長が臨時に代理して永年精勤として表彰したことを報告し、承認された。

### 議案第2号『山口県心身障害児就学指導委員会委員の任命について』

#### 【概要】

山口県心身障害児就学指導委員会規則（昭和53年山口県教育委員会規則第4号）第3条第2項の規定により、山口県心身障害児就学指導委員会委員を以下のとおり任命するよう、審議し、承認された。

#### 平成25年度山口県心身障害児就学指導委員会委員

	氏名	所属・役職名等	区分	備考
1	河野 則子 <sup>こうのりこ</sup>	新 山口県国公立幼稚園連盟会長 （下関市立江浦幼稚園長）	関係教育機関	新規
	やす みつ のり 子 <sup>やすみつのりこ</sup>	前 山口県国公立幼稚園連盟会長 （山口市立秋穂幼稚園長）		前任
2	おく ぞの よし 子 <sup>おくぞのよしこ</sup>	おくぞの耳鼻科クリニック院長	医師(耳鼻科)	継続
3	か とだ けい 子 <sup>かただけいこ</sup>	山口県立大学附属地域共生センター 所長	学識経験者	継続
4	かね はら よう じ 治 <sup>かねはらようじち</sup>	かねはら小児科院長	医師(小児科)	継続
5	た はら たか ひろ 浩 <sup>たはらたかひろ浩</sup>	たはらクリニック院長	医師(内科・小児科)	継続
6	にし かわ ひろ 子 <sup>にしかわひろこ</sup>	山口県LD親の会「ほっぺ」顧問 （医師）	学識経験者	継続
7	はら だ き み よ 代 <sup>はらだきみよ代</sup>	(財)山口県私立幼稚園協会 副理事長	関係教育機関	継続
8	ひら お かなめ 要 <sup>ひらおかなめ要</sup>	社会福祉法人ひらきの里理事	学識経験者	継続
9	ふく だ しゅう ぞう 三 <sup>ふくだしゅうぞう三</sup>	(財)山口県肢体不自由児協会理事	学識経験者	継続
10	ふじ た く み 美 <sup>ふじたくみ美</sup>	山口県立大学社会福祉学部教授	学識経験者	継続

11	まつ おか かつ ひこ 松 岡 勝 彦	山口大学教育学部准教授	学識経験者	継続
12	おお の ひろ たか 大 野 博 孝	山口県特別支援教育研究連盟 代表	関係教育機関	継続
13	よし むら けい こ 吉 村 佳 子	小郡第一総合病院 眼科医	医師(眼科)	継続
14	わたり ひろ こ 渡 広 子	クボクリニク (医 師)	医師(精神科)	継続

任期：平成24年6月1日～平成26年5月31日

### 議案第3号『山口県社会教育委員の委嘱について』

#### 【概要】

社会教育法（昭和24年法律第207号）第15条第2項並びに山口県社会教育委員の定数及び任期に関する条例（昭和24年山口県条例第56号）第1条及び第2条の規定により、山口県社会教育委員を以下のとおり委嘱するよう、審議し、承認された。

### 山口県社会教育委員名簿

（任期 平成24年8月1日～平成26年7月31日）

○学校教育の関係者

平成25年5月23日現在

氏 名	役 職 名	備 考
うちだ しげみ 内田 重美	宇部市立岬小学校長	新 任
すぎやま やすこ 杉山 康子	美祢市立厚保中学校長	
にしむら よしこ 西村 佳子	山口県立山口中央高等学校長	
なかの やすこ 中野 靖子	学校法人中村学園 中村女子高等学校長	
はやかわ かよこ 早川 加代子	学校法人西岐波学園 たちばな幼稚園長	

○社会教育の関係者

なかの りえこ 中野 リエ子	山口県連合婦人会副会長	
ふじい まさひろ 藤井 政宏	山口県連合青年団長	新 任

まつはし み え こ 松橋 美恵子	宇部市子ども会育成連絡協議会会長	
なかいそ かずこ 中磯 和子	山口県PTA連合会副会長	
なかむら よしこ 中村 美子	山口県老人クラブ連合会副会長兼女性部長	
なかはら かずあき 中原 和昭	山口県公民館連合会会長	
さたけ ひろし 佐竹 博	前山口県体育協会常務理事	
みうら けいこ 三浦 恵子	こどもと本ジョイントネット21・山口 光ベースキャンプ役員	

○家庭教育の向上に資する活動を行う者

おざき よしこ 尾崎 喜子	山口県保育協会保育士部会副会長 (下関市立菊川保育園長)	
やすみつ まゆみ 安光 真裕美	山口県地域活動連絡協議会副会長	副議長

○学識経験のある者

やまだ まさとし 山田 正敏	山田石油株式会社代表取締役社長	
たなか りえ 田中 理絵	山口大学教育学部准教授	
あいほら つぎお 相原 次男	宇部フロンティア大学教授	議長
ひさおか てるよ 久岡 照代	株式会社みなと山口合同新聞社 山口新聞編集制作センター長	
いのうえ たかすみ 井上 隆純	特定非営利活動法人 ヒューマンネット21下関 代表	公募

## 報 告 事 項

◆『平成26年度山口県公立学校教員採用候補者選考試験実施要項』について、報告された。

### 【概要】

平成25年5月17日（金）から志願書類の受付を開始した平成26年度山口県公立学校教員採用候補者選考試験の実施要項について、報告したものの。

### 1 選考区分、志願区分（校種等）、教科（科目等）及び採用見込者数

#### ア 一般選考

小学校	195人程度 [昨年度185人程度]	高等 学校	49人程度 [昨年度36人程度]
中学校	94人程度 [昨年度 64人程度]		○ 国語 7人程度
	○ 国語 12人程度		○ 地理歴史(世界史) 1人程度
	○ 社会 12人程度		○ 地理歴史(日本史) 1人程度
	○ 数学 16人程度	○ 地理(地理) 1人程度	
	○ 理科 18人程度	○ 公民(政治・経済) 1人程度	
	○ 音楽 5人程度	○ 数学 6人程度	
	○ 美術 4人程度	○ 理科(物理) 2人程度	
	○ 保健体育 7人程度	○ 理科(化学) 2人程度	
	○ 技術 2人程度	○ 理科(生物) 2人程度	
	○ 家庭 2人程度	○ 理科(地学) 1人程度	
	○ 外国語(英語) 16人程度	○ 保健体育 3人程度	
特別支 援学校	小学部	○ 芸術(音楽) 1人程度	
	4人程度 [昨年度3人程度]	○ 芸術(書道) 1人程度	
	中学部	○ 外国語(英語) 6人程度	
	4人程度 [昨年度3人程度]	○ 家庭 1人程度	
	○ 中学校の試験を実施する教科	○ 情報 1人程度	
	○ 高等学校の試験を実施する教科(科目等)のうち、芸術(書道)及び水産を除く教科(科目等)	○ 農業(農芸化学・食品系) 1人程度	
		○ 工業(機械系) 3人程度	
		○ 工業(電気系) 1人程度	
		○ 工業(土木建築系) 1人程度	
		○ 工業(化学工業系) 1人程度	
		○ 商業 1人程度	
		○ 水産(航海系) 1人程度	
		○ 水産(機関係) 1人程度	
		○ 福祉 1人程度	
養護 教諭	22人程度 [昨年度 22人程度]		
			全体323名程度[昨年度287名程度]

	教科（科目等）	採用見込者数
イ 身体障害者を対象とした選考	・ア一般選考と同様	小学校、中学校、高等学校、特別支援学校及び養護教諭全体で8名程度

ウ 社会人特別選考	・小学校並びに中学校及び高等学校の試験を実施する教科（科目）	小学校、中学校、高等学校ともア一般選考に含む
エ スポーツ・芸術特別選考	・中学校の保健体育、音楽、美術 ・高等学校の保健体育、芸術（音楽、書道）	中学校、高等学校ともア一般選考に含む
オ 博士号取得者特別選考	・高等学校の理科（物理、化学、生物、地学）	ア一般選考に含む
カ 理療科教諭特別選考	・特別支援学校高等部の理療	1名程度

## 2 選考試験の期日及び会場

- (1) 第一次試験 7月20日（土）及び21日（日）  
山口会場：山口高校、山口中央高校、西京高校  
東京会場（神奈川県横浜市）：國學院大學たまプラーザキャンパス
- (2) 第二次試験 8月24日（土）及び25日（日）  
山口高校、山口中央高校、西京高校

## 3 選考試験内容

- (1) 第一次試験
- ア 一般選考、身体障害者を対象とした選考、社会人特別選考及び博士号取得者特別選考  
教職専門（社会人特別選考及び博士号取得者特別選考の志願者以外の者）、教科専門、特別支援教育専門（特別支援学校志願者及び特別支援学校を第二志願とする者）、実技（小学校及び特支援学校小学部の志願者以外の者）、集団面接（討議）
- イ スポーツ・芸術特別選考、理療科教諭特別選考  
個人面接、集団面接（討議）
- (2) 第二次試験  
適性検査、小論文、集団面接（模擬授業及び討議）、個人面接、実技（小学校、特支援学校小学部及び小学校を第二志願とする者）

## 4 選考試験結果の発表

- (1) 第一次試験 8月13日（火）午前9時  
(2) 第二次試験 9月26日（木）午前9時

## 5 平成26年度山口県公立学校教員採用候補者選考試験の変更点

- (1) 受験年齢の上限の引上げ
- ・一般選考、身体障害者を対象とした選考、社会人特別選考及びスポーツ・芸術特別選考の受験年齢を39歳以下から44歳以下に変更  
（高等学校の農業、工業、商業、水産、福祉及び特別支援学校高等部の農業、工業、商業、福祉については44歳以下から49歳以下に変更）

- (2) 中学校、特別支援学校小等部、特別支援学校中学部志願者の小学校との併願を導入
- (3) 教科専門（筆記試験）の試験時間を短縮
- (4) 小学校及び特別支援学校小学校における体育実技（水泳）を中止
- (5) 小学校及び特別支援学校小学部の第二次試験日程を短縮し、2日間で実施
- (6) 身体障害者を対象とした選考の実施教科等に養護教諭を追加
- (7) 教職専門免除対象者を拡大
- (8) 東京会場で実施する校種・教科等を拡大
- (9) 社会人特別選考（高等学校工業）において特別免許状を活用
- (10) スポーツ・芸術特別選考の受験資格に指導者としての実績を有する者を追加
- (11) 特定教科の免許状を所有していることを条件とした募集
  - ・高等学校の芸術（書道）を志願する者は、高等学校の国語の普通免許状が必要
  - ・高等学校及び特別支援学校高等部の情報を志願する者は、高等学校の数学、理科又は家庭のいずれかの普通免許状が必要
- (12) 選考に当たっての考慮事項の追加
- (13) 高等学校水産の受験資格の見直し及び採用延期を導入
- (14) 博士号取得者特別選考を新設

## 6 その他

平成26年度教員採用候補者選考試験説明会を県内外14会場で開催

### 【 質 疑 】

- 稲野委員：筆記試験の時間が昨年と比べて短くなっているが、実技や面接に重点を置くという意図によるものか。
- 教職員課長：全国と比較すると、山口県の教科専門試験の時間がかなり長かったため、受験者の負担等を総合的に勘案して、全国並の時間に合わせたということである。

◆『平成25年度全国学力・学習状況調査の概要』について、報告された。

【概要】

平成25年4月24日（水）に実施された平成25年度全国学力・学習状況調査について、4月教育委員会会議への報告に加え、教科に関する調査を報告したものの。

- 1 調査の目的
- 2 調査対象
- 3 調査実施校数
- 4 調査内容

いずれも前回の教育委員会会議で報告された。

5 教科に関する調査について

【小学校国語】

- ・基礎的・基本的な事項の定着を幅広く問う出題傾向
- ・俳句についての話し合いの場面から作品の情景を捉えるものなど、実際の学習場面を想定した問題が多く出題。
- ・リーフレットを作成するための話し合いをもとに、必要な内容を書き加え、複数の内容を関連付けながらリーフレットを編集するなど、資料を的確に読み取り、自分伝えたいことを表現する能力をみる問題が出題。

【小学校算数】

- ・基礎的な計算問題と、図形や立体の特徴、グラフから読み取って考える問題などが出題。
- ・これまでの調査で課題が見られた、除法の意味、割合についても出題。
- ・日常生活で算数を活用する問題や他教科に関係する問題が出題。
- ・新しく学習指導要領に入った、座標を使ったものの位置の表し方や台形の面積についても出題。

【中学校国語】

- ・市民センターの「催し物案内」を見て参加できる講座を選ぶなど、社会生活を営む上で、必要な基礎的・基本的事項を問う問題が幅広く出題。
- ・小麦と米の粒の構造についての説明文を読み取る問題など、他教科の学習内容と関連付ける問題も出題。
- ・資料を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを具体的に書き表す等、既習の知識や体験と関連付けて、条件に従って記述する問題が出題。

【中学校数学】

- ・計算などの技能だけでなく、これまでの調査で課題が見られた「証明とは何か」についての理解を問う設問や、新たに「関数とは何か」についての理解を問う設問など、「証明」や「関数」などの意味を理解しているかどうかを見る問題が多く出題。



- ・まとめ直したヒストグラムの特徴をもとに、新たにわかることを説明する問題など、新傾向の問題も出題。
- ・図形の移動や投影図、球の体積など、新学習指導要領で追加された内容から多く出題。

#### 6 学校に対する調査について

理科の指導に関する項目が削除され、指導方法・学習規律、コンピュータなどを活用した教育、個に応じた指導、地域の人材・施設の活用に関する項目などが加わった。

#### 7 児童生徒に対する調査について

きめ細かい把握・分析ができるよう設問が増加。

将来の夢や目標、地域や社会との関わり、土曜日の過ごし方、言語活動を重視した授業、外国語や国際化に関する項目などが加わった。

◆教職員の資質能力の向上について～養成・採用段階の取組～

【概要】

1 これからの教員に求められる資質能力

山口県が求める教師像

～未来を担う子どもたちにあなたの熱い情熱を！～

- ◎ 豊かな人間性と人権尊重の精神を身につけ人
- ◎ 強い使命感と倫理観をもち続けることができる人
- ◎ 児童生徒を共感的に理解し、深い教育的愛情をもっている人
- ◎ 幅広い教養と専門的知識、技能をもっている人
- ◎ 豊かな社会性をもち、幅広いコミュニケーションができる人
- ◎ 常に自己研鑽に努める意欲とチャレンジ精神のある人

新たな学びを支える指導力・学校の諸課題への対応

- 思考力・判断力・表現力等を育成する実践的指導力を有する教員
- 困難な課題に同僚と協働し、地域と連携して対応する教員
- 社会の急速な進展の中で、探究力をもち、学び続ける教員

【参考】

中央教育審議会答申

「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」(H24.8)

- (i) 教職に対する責任感、探究力、教職生活全体を通じて自主的に学び続ける力(使命感や責任感、教育的愛情)
- (ii) 専門職としての高度な知識・技能
  - ・教科や教職に関する高度な専門的知識(グローバル化、情報化、特別支援教育その他の新たな課題に対応できる知識・技能を含む)
  - ・新たな学び展開できる実践的指導力(基礎的・基本的な知識・技能の習得に加えて思考力・判断力・表現力等を育成するため、知識・技能を活用する学習活動や課題探究型の学習、協働的学びなどをデザインできる指導力)
  - ・教科指導、生徒指導、学級経営等を的確に実践できる力
- (iii) 総合的な人間力(豊かな人間性や社会性、コミュニケーション力、同僚とチームで対応する力、地域や社会の多様な組織等と連携・協力できる力)

## 2 教員採用の現状

教員採用試験の採用見込者数・志願者数・最終倍率の推移

### (1) 採用見込者数の大幅な増加

- ・ 団塊の世代の教員が退職期を迎え、教員の大量退職にともない採用予定者数が大幅に増加している。
- ・ 教員の年齢構成から、今後も大量採用が見込まれる。

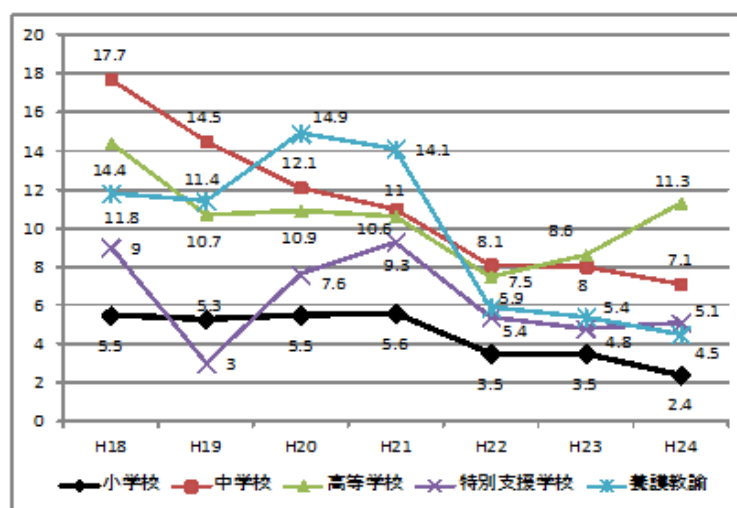
■採用見込者数、志願者数、最終倍率の推移

実施年度	H20	H21	H22	H23	H24	H25
採用見込者数(全体)	164	165	258	281	318	373
小学校	74	73	123	140	186	195
中学校	42	44	56	59	65	94
高等学校	35	36	54	51	35	49
特別支援学校	5	4	5	11	10	13
養護教諭	8	8	20	20	22	22
志願者数(全体)	1,566	1,550	1,580	1,696	1,541	
最終倍率(全体)	8.9	8.6	5.5	5.5	4.6	

### (2) 最終倍率の低下

- ・ 志願者は多少の増減を繰り返して横ばい傾向になっており、最終倍率は年々低下している。
- ・ 小学校教員については、他校種と比べて最も早く退職期のピークを迎えることから、近年、採用予定者数が大幅に増加し、最終倍率は2.4倍まで低下した。

■教員採用試験最終倍率の推移（志願区分別）



### (3) 小学校教員志願者の状況

- ・ 学生の志願者は平成22年度に増加し、近年は横ばい傾向にある。
- ・ 臨時的任用教員等は平成23年度にやや増加したものの減少傾向にある。
- ・ 採用見込者数は増えてきているが、志願者数は増加していない。

■小学校志願者数の推移

実施年度	H20	H21	H22	H23	H24
採用見込者数(小学校)	74	73	123	140	186
志願者数(小学校)	431	433	466	518	469
学生	108	107	146	154	155
臨時的任用教員等	244	215	211	232	206
その他	79	111	109	132	108

## 【別添資料】養成段階の取組

### ア 新規採用予定者研修会（平成19年度から）

- ・目的：新規採用予定者が自信と熱意をもって4月からの教職生活スタートできるよう、山口県教育に対する理解を深めるとともに、着任するまでの心構え等について研修する。
- ・対象者：山口県公立学校新規採用予定者のうち希望者
- ・実施期日：12月末の2日間
- ・実施内容
  - ＜講義＞山口県の教育（教育政策課）
  - ＜講義＞着任するまでの心構えや準備（教職員課）
  - ＜講義・演習＞AFPYの理論と実践
  - ＜講義＞よりよい生徒指導に向けて（学校安全・体育課）
  - ＜事例発表＞先輩教員に学ぶ（校種別）
  - ＜協議＞先輩教員に学ぶ（校種別）
- ・参加者：290人/331人中（平成24年度）  
※不参加者の大多数は、他県本採用教員  
不参加者には、研修資料を送付



※AFPY (Adventure Friendship Program in Yamaguchi) とは  
他者とかかわり合う活動を通して、個人の成長を図り、豊かな人間関係を築くための考え方と行動の在り方を学び合う、山口県独自の体験学習法。

### イ 教員をめざす学生の学校体験制度（平成23年度から）

- ・目的：教員を志望する学生が、実際に児童生徒とふれあったり、教員の仕事に接したりする体験を通して、教員という職業の魅力を実感することにより、教育に対する意欲の向上を図る。
- ・対象者：大学または短期大学に在学している教員志望者（大学1・2年生、短期大学は1年生）
- ・実施時期・期間：9月（1週間以内）
- ・実施校：小学校：16校、中学校：15校、  
高等学校：4校（平成24年度）
- ・参加者：69人（平成24年度）



### ウ 教育実習指定校制度（平成23年度から）

- ・目的：教員をめざす学生が、教育実習において多様な経験を積むことにより自信をもって教壇に立つことができるよう、教員に求められる実践的な指導力を身につける。
- ・対象者：教員になることをめざして教育実習を行う者
- ・実施時期：5月または6月
- ・実施校：高等学校5校（平成24年度）
- ・参加者：2人

エ 教育実習実施にあたってのガイドラインの策定（平成24年度末）

教育実習は、教員志望者が、初めて教壇に立ち、児童生徒とのふれあいや先輩教員からの指導助言・支援を通して、教員になる意志をより高めたり、授業をする力や児童生徒を理解する力など、その重要性に気付いたりする重要な機会であり、教員養成の中核となるものである。

こうしたことから、指針を定めることにより県内の学校において教育実習をより充実した内容で効率的に行うことができるように、ガイドラインを作成した。

本ガイドラインの活用を通して、教職員全員が学校全体で将来の自分たちの仲間を育てるという意識を醸成するとともに、充実した教育実習を行うことにより、教員志望者の教職への意識を一層高め、実践的指導力の向上を図る。

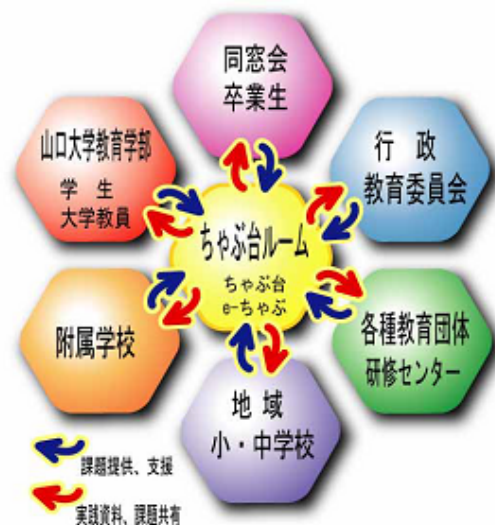


オ 若手教員と教職をめざす学生による協働型教職研修事業「ちゃぶ台次世代コーホート！」

（平成17年度から）

- ・ 目的：学生、現職教員、大学教員、教育機関担当者、地域の教育関係者が協働し、さまざまな教職体験や活動を行うことにより、さまざまな現代的教育課題の理解と解決能力の育成を図る。
- ・ 対象者：教職志望学生、県内外の現職教員（正規採用・臨時的任用教員、補助教員等）、大学教員、教育行政担当者、保護者等
- ・ 実施時期：年10回程度
- ・ 会場：山口大学教育学部にある「ちゃぶ台ルーム」
- ・ 研修内容：
  - 講義演習（学習指導、生徒指導、学級経営、特別支援教育、国際理解教育、ビジネスマナー、人間関係づくり、集団ゲーム、保護者や地域との連携等）
  - 体験研修（学校現場や地域における教育活動や協働体験研修への参加、協議や意見交換等）

〔※「コーホート」とは、「同じ志でつながる同年代の仲間たち」という意味〕



【 質 疑 】

- 稲野委員：大学の医学部では、入学定員に地元出身者のための地域枠等の設定があるが、教育学部でも同様の制度があるのか。
- 教職員課長：本県の教育学部ではまだ同様の制度はない。  
しかしながら、大学と連携して、地元の優秀な人材を教員として採用する道は研究していく必要があると認識している。
- 山縣委員：採用倍率が低下したことで、教員として採用された後に資質上の問題が見受けられるということはないか。

- 教職員課長：現段階で採用した者に課題が出ているということはない。  
採用試験では、教科指導や生徒指導の力、人間としての総合的な力を見ながら、選考を行っており、山口県の教育を担える人材が採用できていると考えている。
- 岡野委員：採用試験での面接の実施状況を伺いたい。
- 教職員課長：1次試験で集団面接、2次試験で集団面接と個人面接の計3回実施している。  
集団面接は個人面接と違い、討論の中でコミュニケーション能力や他人の意見への対応状況等を見ることができると、現在この面接を重視し、1次・2次両試験に導入している。  
また、教育関係者だけでなく、外部の方にも面接委員になっていただくことで、より多角的な視点で受験者を評価できるように工夫している。
- 山縣委員：今回、受験可能な年齢が5歳引き上げられたが、いかなる意図によるものか。  
もっと年齢に関係なく人材を求めても良いのではないか。
- 教職員課長：山口県の教員の年齢構成は50歳代が非常に多い。  
また、年齢制限を設けないとすると、新たに構成のアンバランスを招く恐れもあることから、今回は受験可能年齢を5歳引き上げて、年齢構成のバランスの改善を図ったものである。

## 【 主な意見 】

- 稲野委員：まずは、教員として就職したい、学校という職場に就職したいと思ってもらうことが大事。業務改善や労働条件の改善等を通じて、魅力ある職場をつくっていく必要がある。
- 稲野委員：医師確保では山口県は積極的に取組を進めているため、そのような取組も参考にしつつ、広く、優秀な人材をいかに確保するかという視点で、取組状況を再確認してみるのも良い。団塊の世代の退職者が増えていく中で、早急に取り組めるものから少しずつ取り組んでいただきたい。
- 岡野委員：県外の大学を卒業した人が山口県の教員になりたいと思わせる魅力をつくることが重要。
- 中田委員：ボランティアで施設等へ行って週に何回か授業のようなものを行ったり、外国の方に日本語を教えたりする活動を行っている学生がいる。こうした学生時代に活動してきたことを試験時に評価・配慮できるような仕組みがあると良い。
- 田邊教育長：「教育は人なり」と言われるように、教育の質の向上は、教員の資質能力の向上による部分が大きい。  
良い教員が確実に採用できるよう、本日の御意見をしっかりと踏まえ、取組を進めていく。